

厚生労働科学研究費補助金  
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）

少子化社会における  
保育環境のあり方に関する総合的研究  
(H19—政策—一般—017)  
平成 19 年度～平成 21 年度

総合研究報告書

研究代表者 民秋 言

平成 22（2010）年 3 月

## はじめに

平成 19 年から 3 か年貴重な研究費を頂き「少子化社会における保育環境のあり方に関する総合的研究」に取り組むことが出来た。

この研究は、「保育環境の実態を明らかにするとともに、保育環境のあるべき姿について提言を行うこと」を目的とする。保育環境は、施設や遊具などの物的環境、保育士や子どもなどの人的環境、さらには自然や社会の事象など多岐にわたる。これらのあり方が、保育の展開に影響を及ぼす。では、今日の保育環境の実態はいかなるものか、保育をすすめるのに十分なものか、これを明らかにすることが研究課題の一つである。その実態把握をふまえ保育環境の「あるべき姿」を探り、若干の提言を行うこと、これが二つめの課題である。

いうまでもなく、認可保育所の保育環境については児童福祉施設最低基準が定められている。この基準に準拠して各園は保育の環境を設定し保育をすすめている。したがって、本研究は保育環境の実態を「批判的に検証」することであり、つまるところ最低基準の妥当性の検討でもある。さらに、実態に即して見るなら、この基準は全国 2 万余か所の保育所に普く適合させるべきものかの検討でもある。保育行政的にみて、望ましい保育を展開するために適当な基準であるか、検討するねらいもあった。

保育施策についての議論がさかんになっている今、本研究の成果がいささかなりともお役に立てれば幸甚である

民秋 言

## 目 次

はじめに .....	1
<b>I. 総合研究報告</b>	
少子化社会における保育環境のあり方に関する総合的研究 民秋 言 .....	5
(資料) 調査票 .....	13
(資料) 保育環境に関するチェックリスト .....	95
<b>II. 研究発表等の一覧 .....</b>	<b>101</b>
<b>III. 研究発表等の別刷 .....</b>	<b>105</b>

## I. 総合研究報告

## 少子化社会における保育環境のあり方に関する総合的研究

主任研究者 民秋 言 白梅学園大学 教授

### 研究要旨

本研究の目的は、保育環境の実態を明らかにするとともに、保育環境のあるべき姿について提言を行うことであった。保育環境には、施設や遊具などの物的環境、保育士や子どもなどの人的環境、さらには自然や社会の事象などがあるが、本研究では、物的環境と人的環境の2つに焦点を当て、そのあり方について(1)文献研究、(2)実態調査、(3)比較調査により明らかにし、(4)それらに基づいて保育環境に関する提言を行うことにした。平成19年度は、物的環境、中でも保育室の広さに焦点を当てた。平成20年度は、人的環境について検討した。平成21年度（最終年度）は、平成19年度と20年度に行った人的・物的環境に関する研究の成果を踏まえて、保育環境のあるべき姿や専門職としての保育士の職務をさらに検討し、「保育環境に関する基準」や「保育環境に関するチェックリスト」として提示した。

### 分担研究者

西村 重稀	仁愛大学教授
高野 陽	北陸学院大学教授
吉岡 眞知子	東大阪大学教授
成田 朋子	名古屋柳城短期大学教授
河野 利津子	比治山大学教授
清水 益治	帝塚山大学教授
佐藤 直之	京都女子大学短期大学部准教授 (平成21年9月10日叙)
千葉 武夫	聖和短期大学教授
森 俊之	仁愛大学准教授
川喜田昌代	玉成保育専門学校講師
鈴木 岩雄	名古屋芸術大学准教授
水上 彰子	富山福祉短期大学専任講師

### A. 研究目的

今日、保育ニーズが益々多様化してきているなかで、保育環境のあり方も変わってきている。低年齢児や障害児等の保育需要、また乳幼児の心身の健全な発達保障と生命の安全確保などの観点から、生活空間や遊具等の物的環境や人的環境のあり方が見直されてきている。このような社会的変化によって、あるべき保育環境も変わってきている。保育環境に関する我が国の基準の中では、児童福祉施設最低基準が、最も法的拘束力をもつ。しかし、今日の保育ニーズの多様化は、この基準の検討を必要としてきている。

我が国における保育環境に関する研究は、昭和23（1948）年に文部省が「保育要領—幼児教育の手引き」を公表したことに始まる。昭和30～31年には、黒木、大須賀、牛島などにより厚生科学研究として一連の成果が発表された。近年（平成10年以降）も多くの研究が発表されている（宮原ら（1997）、高田（2003）など）。国外においても、保育環境の研究はさかんである。例えば、保育環境の基準（NAEYC等）、乳児保育の環境（ITERS等）、園内環境（略）、戸外の保育環境（略）、学習を促進する保育環境（略）、安全で衛生的な保育環境（略）等に関する研究がある。しかし、いずれの先行研究も、児童福祉施設最低基準の適切性を判断する科学的根拠には必ずしもならない。

そこで本研究では、我が国の認可保育所における保育環境の実態を明らかにした上で、そのあるべき姿を提言することを目的とした。保育環境は主に物的環境及び人的環境より構成される。物的環境には施設、設備、教材などがある。人的環境には職員、親、子ども、地域の人たちなどがある。

平成19年度は、物的環境、中でも保育室の広さに焦点を当て、文献研究、実態調査及び比較調査を行った。平成20年度は、人的環境、中でも保育士の数に焦点を当て、文献研究、実態調査及び比較調査を行った。最終年度に当たる平成21年度は、過去2年間のような人的・物的環境に関する研究の成果を踏まえて、さらに文献研究、実態調査及び比較調

査を行い、保育環境のあるべき姿や専門職としての保育士の職務を検討し、「保育環境に関する基準」や「保育環境に関するチェックリスト」として提示した。

## B. 研究方法

平成19年度、平成20年度、平成21年度（最終年度）ともに、文献調査、実態調査、比較調査を行い提言をするという流れで研究を行った。各年度のそれぞれの主な調査内容は次の通りであった。

	調査	内容
19年度	文献	保育環境の歴史 保育環境に関する先行研究
	実態比較	保育環境の全国調査（質問紙） 保育環境の状況調査（抽出調査） 保育室の広さを操作した上での観察・聞き取り調査 子どもと保育士の保育中の歩数・走数の分析
20年度	文献	諸外国にみる様々な人的配置の基準 我が国の人的配置基準の歴史的背景
	実態比較	保育士の業務に関する実地・観察調査（VTR・加速度センサー） 人的環境に関する全国質問紙調査
21年度	文献	望ましい保育環境づくりにかかる我が国の法的基準とその変遷 諸外国および我が国の基準や従来の研究
	実態比較	物的環境に関する調査（質問紙調査・カタログによる調査） 人的環境に関する調査（質問紙調査・万歩計調査・加速度センサー調査） 児童福祉施設最低基準に関する全国調査（質問紙） 保育環境にかかるチェックリスト案の作成と検証（質問紙）

いずれの調査でも、調査にあたっては、調査の目的や方法、結果の処理について文書で説明した。その際、個人的な情報が漏れないことや迷惑をかけないことを確約した上で調査に協力してもらうよう依頼した。

## C. 研究結果

### 平成19年度

#### （1）保育環境の歴史

- ①最低基準が定められていった背景
- ②最低基準の推移とその背景
- ③最低基準に対する現場からの反応

（2）保育環境に関する先行研究：国内外の先行研究の分析からは、乳児の場合、一人あたり3.3㎡は、国内だけでなく、国外においても標準的基準であることが明らかになった（NAEYC、ITERS）。

#### （3）保育環境の調査（全国調査）

①食事、睡眠、衣服の着脱、遊びなどの活動は、いずれの年齢でも90%以上、保育室内で行われていた。0歳児では排泄も80%以上、その保育室で行われていた。排泄に関しては、区切って他の活動と共有する形で行われている割合が高かった。

②保育室の床面積は、0歳児、1歳児、2歳児の順に50.7、53.5、50.1平方メートルであり、子ども一人あたりの面積にすると、同じ順に、3.9、3.4、2.9平方メートルであった。

③保育室の床の上には様々な備品が常時置かれていた。いずれの年齢でも、食事用の机や椅子、子ども用のロッカー、遊具の収納箱が置かれていることが多かった。これらに加えて、0歳児の保育室にはベッド、2歳児の保育室にはピアノ・オルガンが置かれている割合が高かった。

④上記の常設備品によって占められる床面積は、0歳児の保育室では平均9.3、1歳児の保育室では平均7.7、2歳児の保育室では平均8.9平方メートルであった。これらの面積を減じると、子ども一人あたりの面積は、0歳児、1歳児、2歳児の順に、3.2、2.9、2.4平方メートルであった。なお、この常設備品が占める床面積は、保育所による違いが非常に大きく、②の保育室の平均床面積よりも大きな値を占める保育所も見られた。

⑤約半数の保育所では、今の保育室が狭い（もっと広い方がよい）と感じる時間帯（活動）があった。0歳児、1歳児、2歳児共に、「午前の遊び」の時間帯をそのように感じていた保育所が多かった。特に0歳児と1歳児では約3分の2の保育所がこの時間帯を狭いと感じていた。保育室が今より広くなると、子どもについては「身体的活動がしやすい」「睡眠など適切な休息をとれる」「集中して遊ぶようになる」「情緒が安定する」状態、保育士については「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」「遊びの援助がしやすい」「睡眠の援助がしやすい」状態になると判断された。

⑥今の保育室が広い（もっと狭いほうがよい）と感じる時間帯（活動）が「ある」と答えた保育所は、0歳児で7.2%、1歳児で10.9%、2歳児で7.5%と、それほど多くなかった。「ある」と答えた保育所では、一人一人の子どもに目が行き届く必要がある時間帯を、もっと狭いほうがよいと感じていた。保育室が今より狭くなると、子どもについては「食事を楽しむことができなくなる」「睡眠など適切な休息をとれなくなる」「清潔を保つ行動が減る」「身体的活動がしにくくなる」「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が減る」「情緒が不安定になる」「機嫌が悪くなる」「集中して遊ばなくなる」「怪我が多くなる」「子どもが疲れやすくなる」「子どものかみつきが多くなる」「保育室から出て行く」という状態になると判断された。保育士については、「排泄・食事・睡眠・清潔・着脱・遊びの援助がしにくくなる」「玩具・遊具など物的環境が管理しにくくなる」「安全管理がしにくくなる」「ストレスがたまる」「疲れやすくなる」「口調が激しくなる」「移動がしにくくなる」「保育室以外で保育をする機会が増える」という状態になると判断された。

⑦保育室の環境を見直すための話し合いは、「月に1回程度」、あるいは「不定期的に（決まっていない）」なされていた（いずれも4割程度）。しかし保育室の環境をかえる頻度は「決まっていない」が約4割であった。

#### （4）保育室の広さを操作した上での観察研究

①子どもは、3.3㎡条件の方が2.5㎡条件よりも、食事を楽しみ、身近な物に興味を示し、発話が多かった。

②保育士は、3.3㎡条件の方が2.5㎡条件よりも、食事の援助や睡眠・休息への配慮がしやすかった。逆に2.5㎡条件の方が3.3㎡条件よりも、声が大きく、口調が強くなり、圧迫感、疲労感、慌ただしさ、焦り・いらだちを感じた。

③移動量の分析では、子どもは、3.3㎡条件の方が2.5㎡条件よりも、移動活動量が大きかった。保育士では差はなかった。

④子ども同士の接触量（ぶつかりの回数）は、2.5㎡条件の方が3.3㎡条件よりも多かった。

#### （5）子どもと保育士の保育中の歩数の分析

①保育中に子どもや保育士が歩いた歩数は、時間毎に分析することが可能である。

②歩数と走数の両方を尺度とすることができる。

③個人内と個人間の両方において、歩数の個人差を分析することができる。

### 平成20年度

（1）諸外国にみる様々な人的配置の基準：保育者と子ども比率および1グループあたりの最大子ども数については、基準を設けていない国、州や地方ごとに統一基準を設定している国、推奨基準を設定している国がみられた。たとえば米国は州ごとに年齢別の比率の最低基準を設定していた。また米国を中心とした保育の質的研究では、構造的要因（家庭構造、保育構造）と過程的要因（家族過程、保育課程）に分類して、人間関係のあり方の重要性も強調されていた。

（2）我が国の人的配置基準の歴史的背景：保育所の人的配置については、昭和23年に制定された「児童福祉施設最低基準」によって初めて法令上の位置付けがなされた。このときの保母の配置基準は、厚生省の依頼を受けた日本社会事業協会が提言した最低基準案が基礎となっていたが、この案も、アメリカワシントン州の基準を参考にしたもので、必ずしも科学的、合理的根拠に基づくものとはいえなかった。さらに、厚生省は省令案の作成にあたっては、当時の社会的、経済的事情に対応せざるを得ず、その後の国民経済の進展と国民生活の向上に照応して逐次定められていくものと捉えていた。

その後、経済成長とともに、保育の実践の場からの要望等と中央児童福祉審議会の答申・意見具申を受けて、配置基準は徐々に改善され、保母配置の最低基準は保育の質の維持と向上に大きな役割を果たしてきた。しかし、平成10年以降改善はなく、また規制緩和について中央児童福祉審議会に専門部会を設置し、検討することもなく、常勤保母（保育士）の解釈の変更等、最低基準の意義が低下しているという問題が示唆された。

（3）保育士の業務に関する実地・観察調査：保育士の保育という業務は、養護と教育が一体となっていることがその基本である。養護といっても、食事や排泄、着替え、午睡などに関する援助や、保育室の清掃や環境調整など多岐にわたっていた。また、食事に関する援助一つを取り上げても、個々の援助や声かけなど直接子どもと関わる活動だけではなく、机や椅子の配置、調理室からの運搬、配膳、机・床の清掃など、直接子どもと関わらない活動も

含まれていた。そのほか、保育の計画や評価、会議や研修、家庭や地域との連携、事務など、その内容は多岐にわたっていた。

実際の保育場面では、これらの多岐にわたった活動が、同時進行的に複雑に生じてくるのが一つの特徴であった。たとえば、ある保育所のある保育士は、わずか5分間に、「おやつの食器等を片付けて、子どもの排泄を促すためにトイレに誘うとともに、実際に排泄の援助をし、その子がズボンを自分ではけるように工夫をし、子どものペースでズボンはきの援助をし、5人の子どもを園庭に誘い、順次、靴を履く援助をする」（平成21年2月、1歳児クラスの保育観察による）というように、食事、排泄、着替え、遊びに関する援助などを次々に遂行していた。

多様な子どもに対して、子ども一人ひとりに合わせた保育を実現するためには、さらにその業務は複雑なものとなることが示唆された。

#### （4）人的環境に関する全国調査

##### ①子どもと保育士の行動に保育士の数が与える影響

1歳児を担当する保育士は、今より保育士の数が減った場合、子どもは「食事を楽しむことができなくなる」、「睡眠など適切な休息がとれなくなる」、「清潔を保つ行動が減る」、「身体的活動がしにくい」、「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が減る」、「情緒が不安定になる」、「機嫌が悪くなる」、「子どものかみつきが増える」と回答した。2歳児を担当する保育士も、同じ結果であった。

保育士の行動に対する影響について、1歳児を担当する保育士は、「健康状態の把握がしにくい」、「スキンシップをとりにくい」、「排泄の援助がしにくい」、「食事の援助がしにくい」、「着脱の援助がしにくい」、「遊びの援助がしにくい」、「言葉かけがしにくい」、「玩具・遊具など物的環境を管理しにくい」、「安全管理をしにくい」、「保育士のストレスがたまる」、「保育士が疲れやすくなる」、「保育士の口調が厳しくなる」、「保護者への対応がしにくい」などと答えた。2歳児を担当する保育士もほぼ同様の結果であった。このように保育士の数は保育に大きな影響を与える。

尚、1歳児を担当する保育士と2歳児を担当する保育士を比較すると、1歳児を担当する保育士の方が上記のように答えた者の割合が高かった。また別の分析からも、保育がもつ条件によって、保育士の数

が子どもや保育士の行動に与える影響が一様でないことが明らかになった。

##### ②業務によって異なる必要な人的配置の基準

現状の保育（職員配置）体制において、保育士不足を感じる業務（活動）について、1歳児を担当する保育士は、「食事（授乳を含む）の援助」、「排泄の援助」、「着脱の援助」、「午前の遊び」、「保育中の掃除・片づけ」をあげた。特に「食事（授乳を含む）の援助」は過半数、「排泄の援助」と「着脱の援助」も3分の1以上の保育士が、「保育士がもっと多い方がよい」と感じていた。2歳児を担当する保育士は、「食事（授乳を含む）の援助」、「着脱の援助」、「排泄の援助」、「午前の遊び」、「登園（所）時の子ども対応」をあげた。特に「食事（授乳を含む）の援助」は過半数、「着脱の援助」と「排泄の援助」も3分の1以上の保育士が、「保育士がもっと多い方がよい」と感じていた。

1歳児を担当する保育士と2歳児を担当する保育士を比較すると、1歳児を担当する保育士の方が、上記の業務について、「保育士がもっと多い方がよい」と感じていた割合が高かった。また別の分析からも、保育がもつ条件によって、保育士不足を感じる割合は、業務によって一様ではないことが明らかになった。

#### 平成21年度

##### （1）望ましい保育環境づくりにかかる我が国の法的基準とその変遷

終戦後、巷に溢れる戦災孤児、引き上げ固持に対する緊急対策として策定された「児童保護法案要綱大綱案」に対して、GHQの示唆や日本国憲法の理念を受けて、「児童福祉法」が制定された。その第45条に基づき、日本社会事業協会作成の児童福祉施設最低基準案を基礎にして、約1年かけて「児童福祉施設最低基準」が厚生省令として制定された。その後、面積等の基準はほぼそのまま踏襲されてきている。人的基準については保育士1人当たりの子どもの数が少しずつ減ってくるなど改善がみられた。当初あった「児童福祉審議会の意見を聞き」という規定は削られて久しいなど、最低基準を改善するシステムの回復・再構築が望まれている。

##### （2）諸外国および我が国の基準や従来の研究

諸外国の評価基準の代表的なものにはECERS-R、ITERS-R、FCCERS-R、NAEYC、Quality Standards for NAFCC Accreditationなど



がある。我が国の基準に関する研究には、埋橋(2004)、秋田(2008)、全国社会福祉協議会(2009)などがある。我が国で作成されてきた基準及びチェックリストには、全国社会福祉施設経営者協議会(1994)による保育所におけるサービスチェックリスト、日本保育協会(1996)による「保育内容等の自己評価のためのチェックリスト(園長・所長篇)(保母篇)」、全国保育士養成協議会児童福祉施設福祉サービス第三者評価機関HYKによる評価基準、本研究の代表者の民秋らによる「保育士のための自己評価チェックリスト」、同平成20年告示保育所保育指针对応版などがある。諸外国の基準は、物的環境に対しては具体的で詳細であったり、人的環境に対しては子どもとのかかわりに重きを置いたりするなど、我が国の当初の基準と保育の質の捉え方に違いがあった。

### **(3) 保育所における環境実態とその状況が変わることの影響**

保育室に常に置かれている備品や部屋の使い方には、子どもの年齢による違いが大きかった。保育士1人当たりの子どもの数は、算出の方法にもよるが、園による違いが大きかった。

全ての年齢を担当する保育士が、面積が狭くなったり、保育士1人当たりの子どもの数が増えたりすると、子どもと保育士の多くの行動にマイナスであると回答した。逆に面積が広くなったり、保育士1人当たりの子どもの数が減ったりしても、子どもと保育士の行動にとって、いくつかのプラスはあるものの、概して今と変わらないと回答した。

万歩計や加速度計などの客観的指標を用いて保育士の行動を分析したところ、活動すなわち業務による違いが現れた。これらの指標が保育士の業務分析に利用可能であることが示された。

### **(4) 最低基準の存在とその必要性に対する園長や主任の認知**

保育需要やニーズが変わり続ける一因に、保育の法的な位置づけと少子化があることが示された。この変化に最低基準を対応させていく必要性が示唆された。

園長又は主任は、このような基準は国が規定すべきであると考えていた。現行の基準に含まれる内容が、規定される必要性も認めていた。このような認知に関しては、公立保育所と私立保育所、園が所属する自治体の規模による違いがあった。

### **(5) 最低基準に対する保育士の知識と保育所保育指針に基づく保育の実施状況**

保育士は最低基準の存在を知っていた。最低基準に規定されている内容については、その内容によって認知度が異なった。例えば、保育士1人当たりの子どもの数についてはよく知られていたが、保育室の面積の基準についてはあまり知られていなかった。保育士は保育所保育指針に基づく保育を実施していた。しかしながらその実施状況を記録として残している割合はそれほど高くなかった。

## **D. 考察**

平成19年度に得られた結果には、次の4つ意義があると考察された。すなわち、(1)保育室の面積の最低基準を考える資料、(2)保育室の使い方の工夫を促す資料、(3)保育室の設計や常設備品の開発のための資料、(4)保育や保育環境の評価方法を考えるための資料、としての意義である。

平成20年度に得られた結果には、次の5つの意義があると考察された。(1)人的配置基準を検討する最初のステップ、(2)業務内容のプロセス評価の足がかり、(3)業務内容に応じた養成・研修カリキュラムの構築、(4)保育士のあらゆる業務に対するマニュアル作り、(5)保育士の業務遂行にかかるチェックリスト作り、としての意義である。

平成21年度(最終年度)に得られた結果には、次の3つの意義があると考察された。(1)様々な福祉施設における基準見直しにむけた方法論の提供、(2)現任保育士の研修プログラム策定への基礎資料提供、(3)保育士養成のカリキュラム及びその具体化としてのシラバス作りへの基礎資料提供、としての意義である。

## **E. 結論(提言)**

(1) 児童福祉施設最低基準における保育所関連の基準は、物的基準、人的基準共に現行通りが望ましい。

(2) 改定保育所保育指針に基づく業務内容の妥当性等を分析する必要がある。

(3) 保育士のあらゆる業務内容をマニュアル化する必要がある。

(4) 業務内容のプロセス評価の基準を検討する必要がある。

(5) 保育士の業務遂行にかかるチェックリストを

作成する必要がある。

(6) 業務内容に応じた養成・研修のカリキュラムを構築する必要がある。

(7) 保育所保育指針に基づく保育所における業務の記録様式を作成する必要がある。

(8) 最低基準を意識した養成や研修で活用できるテキストや教材、さらにそれらのデータベースを作ることが望まれる。

これらのことにより保育全体の環境改善や質の向上につながると思われる。

## F. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表

- [1] 「保育室が今より狭くなった場合(1)子どもの行動に生じる変化」 日本保育学会第62回大会発表論文集, 14頁, 2009年
- [2] 「保育室が今より狭くなった場合(2)保育士の行動に生じる変化」 日本保育学会第62回大会発表論文集, 15頁, 2009年
- [3] 「保育室が今より広くなった場合(1)子どもの行動に生じる変化」 日本保育学会第62回大会発表論文集, 170頁, 2009年
- [4] 「保育室が今より広くなった場合(2)保育士の行動に生じる変化」 日本保育学会第62回大会発表論文集, 171頁, 2009年
- [5] 「保育室の広さが乳児の行動に及ぼす影響: ビデオ観察による検討」 日本保育学会第62回大会発表論文集, 172頁, 2009年
- [6] 「子どもと保育士の保育中の歩数の分析」 日本保育学会第62回大会発表論文集, 239頁, 2009年
- [7] 「1・2歳児クラス担当の保育士が忙しい・保育士不足であると感じる活動」 全国保育士養成協議会第48回研究大会研究発表論文集, 142-143頁, 2009年

[8] 「子どもと保育士の数の割合の変化が子どもの行動に及ぼす影響」 全国保育士養成協議会第48回研究大会研究発表論文集, 288-289頁, 2009年

[9] 「子どもと保育士の数の割合の変化が保育士の行動に及ぼす影響」 全国保育士養成協議会第48回研究大会研究発表論文集, 290-291頁, 2009年

[10] 「平成21年度厚生労働科学研究 政策科学推進研究事業公開シンポジウム 子どもが健やかに育つ社会 『少子化社会における保育環境のあり方に関する総合的研究』」 恩賜財団母子愛育会 2010年

[11] 厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策推進研究事業)平成19年度 総括研究報告書「少子化社会における保育環境の在り方に関する総合的研究」

[12] 厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策推進研究事業)平成20年度 総括研究報告書「少子化社会における保育環境の在り方に関する総合的研究」

[13] 厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策推進研究事業)平成21年度 総括研究報告書「少子化社会における保育環境の在り方に関する総合的研究」

## G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

資料

調査票

## 「保育室の環境に関する調査」 アンケート調査についてお願い

平成20年1月24日  
白梅学園大学 民秋 言

皆さまにおかれましては、ますますご健勝のもと、保育にお励みのことと存じます。  
さて、私たちは、この度、厚生労働省から「少子化社会における保育環境のあり方に関する総合研究」（平成19年度厚生科学研究政策科学総合研究事業《政策科学推進研究事業》H19-政策-一般-017）の委託を受けました。

つきましては、研究の一環として下記のとおりアンケート調査を実施させて頂きたいと存じます。ご多忙の折り恐縮ですが研究主旨をご理解のうえ、ご協力賜りますよう、よろしく願いいたします。

### 記

#### 研究主旨

本研究は、保育環境のあり方を明らかにするとともに、保育環境のあるべき姿について提言を行おうとするものです。

#### アンケートの目的

上記主旨にそってアンケート調査を実施し、保育所における保育環境の実態を明らかにするとともに、保育室の広さ、子どもの人数、保育室の備品などの違いが保育活動や子どもの育ちにどのような影響を与えるのかを知るための資料とします。

#### 回収と集計

当方所定の封筒にて回収し、内容はコンピュータにより統計処理いたします。園名、個人名など個別的には公表はいたしません。

主任研究者 民秋 言（白梅学園大学）  
西村重稀（仁愛女子短期大学）  
高野 陽（東洋英和女学院大学）  
吉岡真知子（東大阪大学）  
佐藤牧人（東京国際福祉専門学校）  
成田朋子（名古屋柳城短期大学）  
河野利津子（比治山大学短期大学部）  
清水益治（神戸女子大学）  
佐藤直之（京都女子大学短期大学部）  
千葉武夫（聖和大学短期大学部）  
森 俊之（仁愛女子短期大学）  
川喜田昌代（白梅学園大学）

## アンケート用紙の配付・回収方法について

このアンケートは、0、1、2歳児の保育室の環境についてお尋ねするものです。

### 調査表の構成について

この調査票は、4枚構成になっています。

Aは、保育所に在籍する0、1、2歳児全般のことについてお尋ねします。

Bは、0歳児の保育室についてお尋ねします。

Cは、1歳児の保育室についてお尋ねします。

Dは、2歳児の保育室についてお尋ねします。

### 調査用紙の記入者について

0、1、2歳児の部屋を対象に調査いたします。そのため、主任か、各部屋の責任者の方にご記入をお願いします。年齢ごとではなく混合でクラス編成されている場合は、3つの部屋を選んで、それぞれの部屋の担当者に回答をお願いします。混合クラスで部屋の数に2つ以下の場合は、部屋の数に1つ以上の担当者が回答して下さい。

### 回収について

記入されたアンケート用紙を回収用封筒に封入のうえ、同封の返信用封筒にてお送りください。

### 返送の期日

お忙しいところ恐縮ですが、統計処理の都合上平成20年2月25日(月)までに返送してください。

平成 20 年 1 月 15 日

各 位

厚生科学研究（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））に関する協力依頼

厚生労働省

雇用均等・児童家庭局保育課

時下、ますますご清祥のことと存じます。

この度、厚生労働省平成 19 年度厚生科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））「少子化社会における保育環境のあり方に関する総合的研究（H19-政策一般-017）」を白梅学園大学民秋言教授に委託し、研究を実施することとなりました。

つきましては、当該研究事業の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 「保育室の環境に関する調査」

本調査の集計は、コンピュータにより統計的に処理し、個別名をあげて報告はいたしません。調査にご協力いただいた方にご迷惑をかけないよう万全の注意を払います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### 記入にあたってのお願い

この調査票は、4部構成になっています。

**A**は、保育所に在籍する0、1、2歳児全般のことについてお尋ねします。

**B**は、0歳児の保育室についてお尋ねします。

**C**は、1歳児の保育室についてお尋ねします。

**D**は、2歳児の保育室についてお尋ねします。

混合クラスなどで年齢ごとにわけられていない場合は、0～2歳児の保育室のうち3つを選んで回答してください。  
またクラス数が3つより少ない場合は、該当するクラス数のみ**B** **C** **D**に回答してください。

### **A** あなたの勤務する保育所のことについてお伺いします。

Q1. 保育所（園）の所在地 ( ) 都道府県 ( ) 市町村

Q2. 保育所（園）の設置主体 1. 公立 2. 私立

Q3. 0、1、2歳児の定員と、調査票記入日現在の在籍数をご記入ください。

	0歳児	1歳児	2歳児	園全体
定員 (平成19年4月2日現在)	人	人	人	人
在籍数(調査票記入日) 月 日現在	人	人	人	人

Q4. 0、1、2歳児のクラスは、どのような年齢構成になっていますか。記入日現在でお書きください。

(○印を付け、具体的にクラス数をお書きください。)

1. 年齢ごとにクラスを設定している (クラス数 クラス)
2. 0、1歳児の混合のクラスとなっている (クラス数 クラス)
3. 1、2歳児の混合のクラスとなっている (クラス数 クラス)
4. 0～2歳児まですべてが混合のクラスである (クラス数 クラス)
5. その他 ( )

Q5. 0、1、2歳児が使用している保育室は、どのような年齢構成で使用されていますか。

(○印を付け、具体的に部屋の数をお書きください)

1. 年齢ごとの保育室がある (保育室の数 部屋)
2. 0、1歳児の混合の保育室がある。 (保育室の数 部屋)
3. 1、2歳児の混合の保育室がある。 (保育室の数 部屋)
4. 0～2歳児まですべての混合の保育室がある。 (保育室の数 部屋)
5. その他 ( )

## B 0歳児の保育室について

(0歳児の保育室が複数ある場合は、そのうちのいずれか1つの保育室についてお答えください。  
また、年齢混合の保育室の場合は、0歳児が含まれる保育室のいずれか1つについてお答えください)

Q 1. この保育室で主に生活する子ども的人数をお答えください。

0歳児\_\_\_人 1歳児\_\_\_人 2歳児\_\_\_人 その他\_\_\_歳児\_\_\_人 合計\_\_\_人

Q 2. 次の各活動を行うのは、この保育室が多いですか。それとも他の部屋を利用することが多いですか。

1を選んだ場合、その利用の仕方をお選びください。

2を選んだ場合、その理由をお書きください。

食 事 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

睡 眠 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

排 泄 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

衣服の着脱 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

清潔 (沐浴、清拭等) 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

遊び (外遊びを除く) 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

Q 3. この保育室の床面積は \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> または 畳 \_\_\_\_\_ 畳分

Q 4. 上記の保育室の床の上に置いてある備品 (いつも床の上に置いてあるもの) には何がありますか。

該当するものすべてに○をつけてください。(複数回答可)

1. タンス 2. 布団入れ 3. 子どもの個人用ロッカー 4. ベッド ( \_\_\_ 台) 5. タオルかけ 6. 教材入れ
7. 遊具の収納棚 8. 連絡ボード台 9. おむつ交換台 10. 汚物などを入れる棚 11. 大人用の机
12. 大人用のロッカー 13. 掃除道具入れ 14. 食事用机椅子 (ベビー用ラックを含む) 15. ピアノ・オルガン
16. テレビ 17. その他 ( \_\_\_\_\_ )

\*上記備品が占有している床面積は およそ \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> または 畳 \_\_\_\_\_ 畳分



Q5. 保育をしていて、この保育室が狭い(もっと広いほうがよい)と感じる時間帯(活動)はありますか。

1. はい 2. いいえ

→「はい」と答えた方は、そのように感じる時間帯すべてに○をつけてください。(複数回答可)

1. 朝の受け入れ時 2. 午前の遊び 3. 午後の遊び 4. 食事(授乳を含む) 5. 睡眠  
6. 排泄(オムツ交換を含む) 7. 着脱 8. 清潔(沐浴、清拭等) 9. 延長保育時 10. 引き渡し時  
11. その他( )

Q6. この保育室が今より広くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか。

下記の各項目について、

今よりも以下の文のようになると思われる場合は「+1」、

今と変わらないと思われる場合は「0」、

むしろ以下の文とは逆の結果となると思われる場合は「-1」、

に○印をつけてください。

A群 子どもについて

- |                         |    |   |    |
|-------------------------|----|---|----|
| 1. 食事を楽しむことができる         | +1 | 0 | -1 |
| 2. 睡眠など適切な休息をとれる        | +1 | 0 | -1 |
| 3. 清潔を保つ行動が増える          | +1 | 0 | -1 |
| 4. 身体的活動がしやすい           | +1 | 0 | -1 |
| 5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える | +1 | 0 | -1 |
| 6. 言葉(喃語を含む)を発しやすくなる    | +1 | 0 | -1 |
| 7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ     | +1 | 0 | -1 |
| 8. 情緒が安定する              | +1 | 0 | -1 |
| 9. 機嫌がよくなる              | +1 | 0 | -1 |
| 10. 集中して遊ぶようになる         | +1 | 0 | -1 |
| 11. 怪我が多くなる             | +1 | 0 | -1 |
| 12. 子どもが疲れにくくなる         | +1 | 0 | -1 |
| 13. 子ども同士のかかわりが多くなる     | +1 | 0 | -1 |
| 14. 子どものかみつきが少なくなる      | +1 | 0 | -1 |
| 15. 保育室から出ていかない         | +1 | 0 | -1 |
| 16. 保育士への関わりを多く求める      | +1 | 0 | -1 |

B群 保育士について

- |                        |    |   |    |
|------------------------|----|---|----|
| 1. 健康状態の把握がしやすい        | +1 | 0 | -1 |
| 2. スキンシップをとりやすい        | +1 | 0 | -1 |
| 3. 排泄の援助がしやすい          | +1 | 0 | -1 |
| 4. 食事の援助がしやすい          | +1 | 0 | -1 |
| 5. 睡眠の援助がしやすい          | +1 | 0 | -1 |
| 6. 清潔の援助がしやすい          | +1 | 0 | -1 |
| 7. 着脱の援助がしやすい          | +1 | 0 | -1 |
| 8. 遊びの援助がしやすい          | +1 | 0 | -1 |
| 9. 言葉かけがしやすい           | +1 | 0 | -1 |
| 10. 保育士同士の会話がしやすい      | +1 | 0 | -1 |
| 11. 温度湿度の管理がしやすい       | +1 | 0 | -1 |
| 12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい | +1 | 0 | -1 |
| 13. 安全管理をしやすい          | +1 | 0 | -1 |
| 14. 保育士のストレスがたまらない     | +1 | 0 | -1 |
| 15. 保育士が疲れにくくなる        | +1 | 0 | -1 |
| 16. 保育士の口調が柔らかくなる      | +1 | 0 | -1 |
| 17. 保育士が移動しやすくなる       | +1 | 0 | -1 |
| 18. 保育室以外で保育する機会が少なくなる | +1 | 0 | -1 |



Q9. この保育室の環境構成について、園内でどのくらいの頻度で話し合いをしていますか。

1. 週1回程度    2. 月1回程度    3. 2～3月に1回程度    4. 3～6か月に1回    5. 決まっていない

Q10. この保育室の環境構成を、どのくらいの頻度でかえていますか。

1. 週1回程度    2. 月1回程度    3. 2～3月に1回程度    4. 3～6か月に1回    5. 決まっていない

Q11. この保育室の現在の広さについて、あなたはどのようにお考えですか。

1. 今の広さがちょうどよい  
2. 今より広いほうがよい

(具体的にあとどのくらい広いほうがよいですか    \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> または 畳 \_\_\_\_\_ 畳分)

3. 今より狭いほうがよい

(具体的にあとどのくらい狭いほうがよいですか    \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> または 畳 \_\_\_\_\_ 畳分)

Q12. この部屋の環境を構成する上で工夫している点について、ご自由にご記入下さい。

[

]

ご協力ありがとうございました。

## C 1歳児の保育室について

(1歳児の保育室が複数ある場合は、そのうちのいずれか1つの保育室についてお答えください。  
また、年齢混合の保育室の場合は、1歳児が含まれる保育室のいずれか1つについてお答えください)

Q1. この保育室で主に生活する子どもの人数をお答えください。

0歳児\_\_\_人 1歳児\_\_\_人 2歳児\_\_\_人 その他\_\_\_歳児\_\_\_人 合計\_\_\_人

Q2. 次の各活動を行うのは、この保育室が多いですか。それとも他の部屋を利用することが多いですか。

1を選んだ場合、その利用の仕方をお選びください。

2を選んだ場合、その理由をお書きください。

食 事 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

睡 眠 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

排 泄 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

衣服の着脱 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

清潔 (沐浴、清拭等) 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

遊び (外遊びを除く) 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

Q3. この保育室の床面積は \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> または 畳 \_\_\_\_\_ 畳分

Q4. 上記の保育室の床の上に置いてある備品 (いつも床の上に置いてあるもの) には何がありますか。

該当するものすべてに○をつけてください。(複数回答可)

1. タンス 2. 布団入れ 3. 子どもの個人用ロッカー 4. ベッド ( \_\_\_ 台) 5. タオルかけ 6. 教材入れ
7. 遊具の収納棚 8. 連絡ボード台 9. おむつ交換台 10. 汚物などを入れる棚 11. 大人用の机
12. 大人用のロッカー 13. 掃除道具入れ 14. 食事用机椅子 (ベビー用ラックを含む) 15. ピアノ・オルガン
16. テレビ 17. その他 ( \_\_\_\_\_ )

\*上記備品が占有している床面積は およそ \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> または 畳 \_\_\_\_\_ 畳分